

要  
之  
卷

卷  
物

和装本

ケ 5

44

146

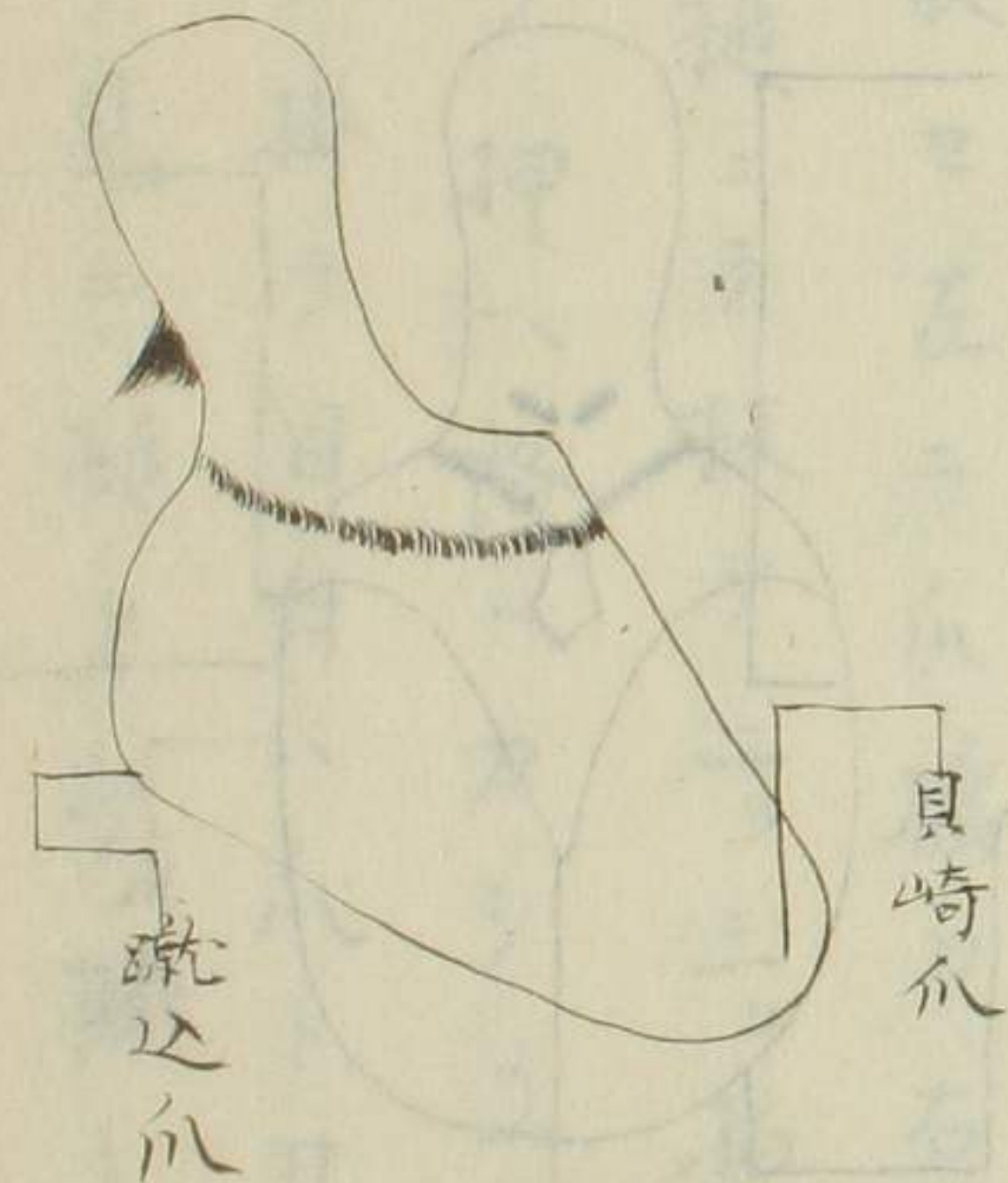




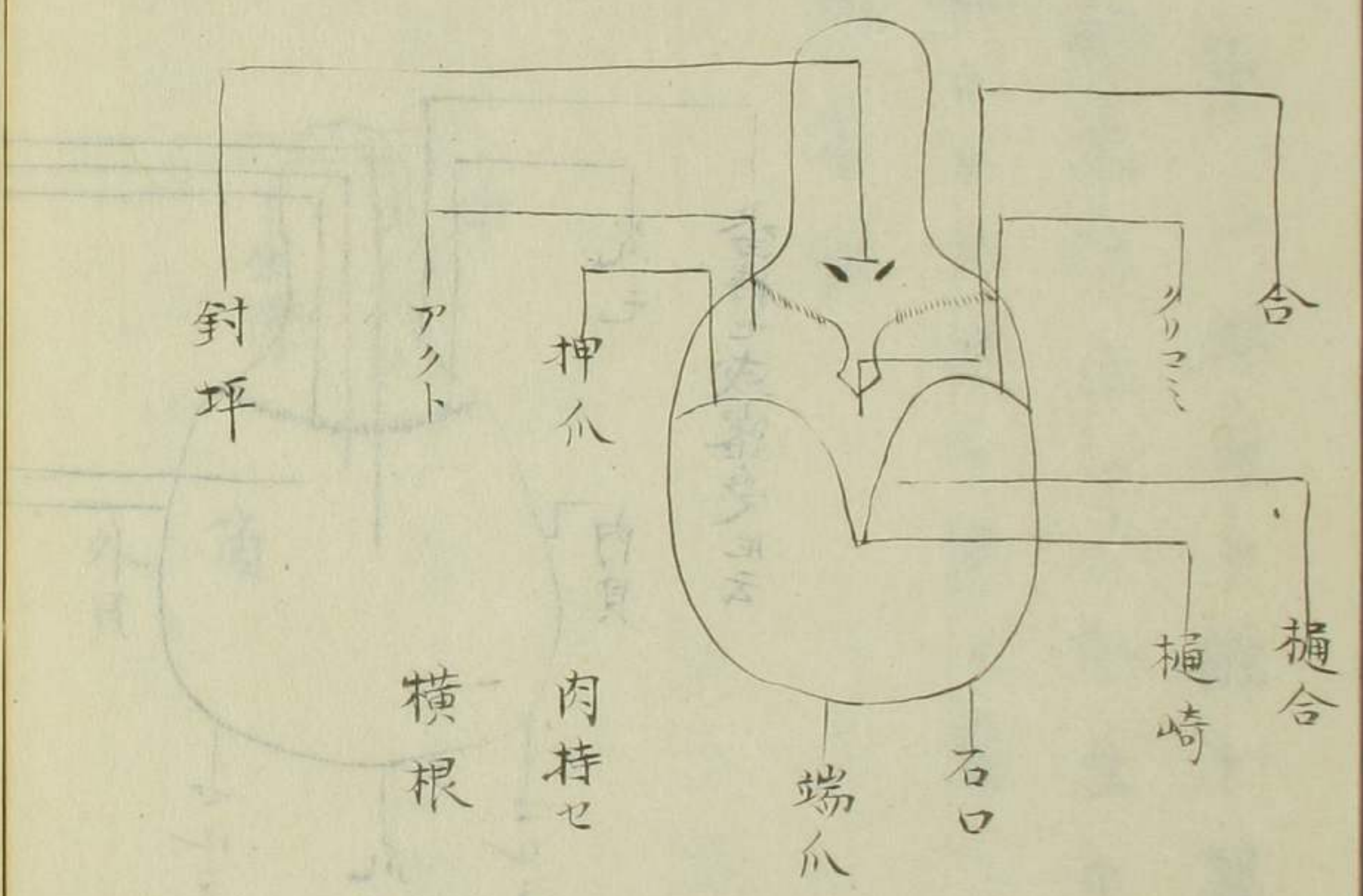
大坪本流要之卷

爪者蹄也先師之要トスル爪心辨荷  
 持之元ナレハ蹄ヲ能知リ能搗ス  
 ンハ有ヘカラス千里之駿馬トイ  
 ヘ凡蹄悪敷トキハ其徳何ノ益カ  
 有ラシヤ四煩ノ症モ蹄ノ育悪敷  
 爪ヲ搗変不可ナル故也血脉滞テ  
 四蹄発熱スル者也是故馬々ノ爪

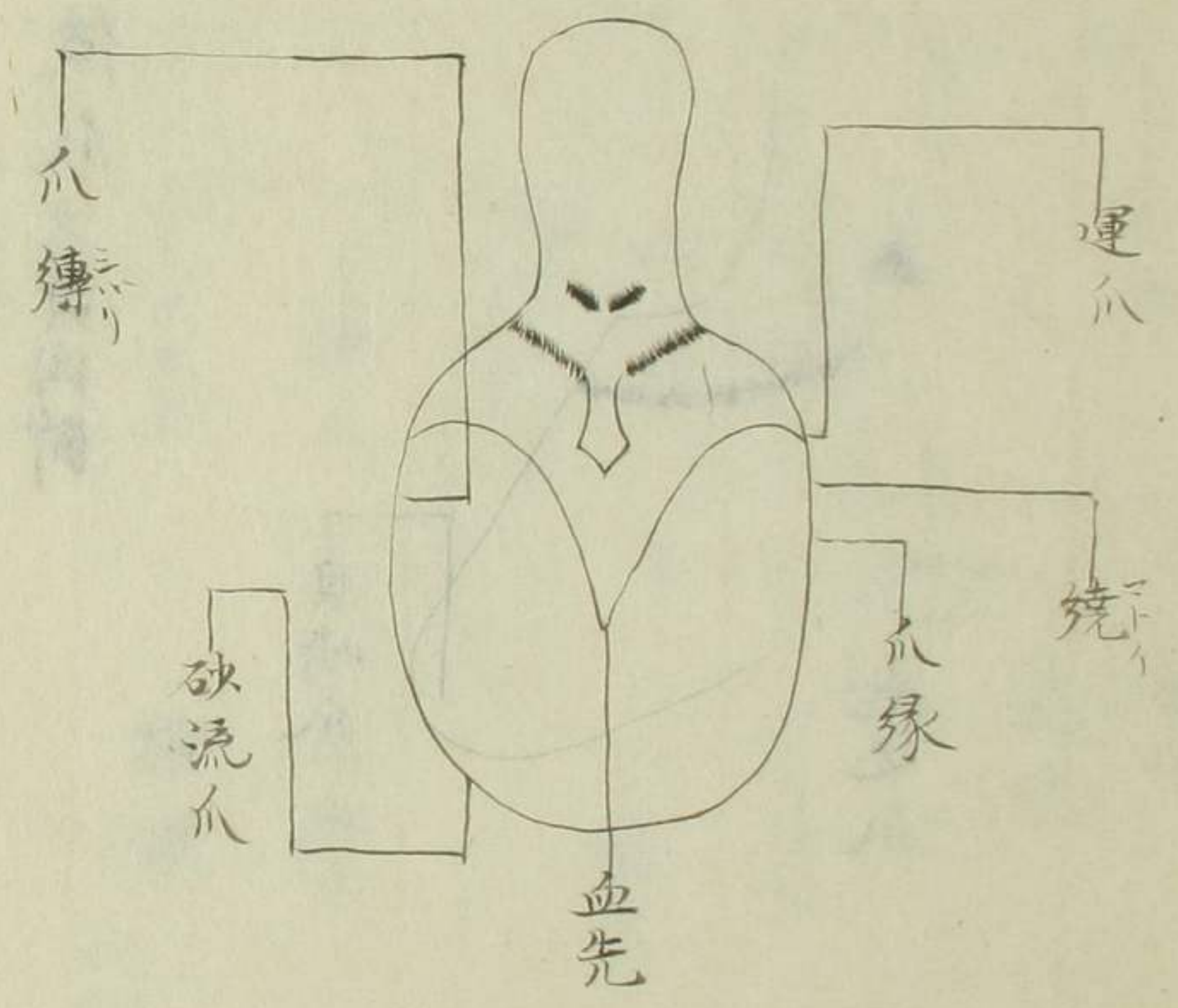




後爪名同新



爪裏ノ惣名ヲ指テ胡桃形ト云也爪  
 シ鴉時ハ先爪鴉板ヲ直ニ敷セサテ馬  
 シ川掛板ノ上一前足登リタル時口ヲ  
 高ク取セ左ニ爪鴉刀右ニ槌ヲ取テ  
 指竒槌ニテ板ヲニッニッ拍テ馬ニ知セ  
 外貝ノ押ハ際ヘカシ立丸ミッ少  
 シ深ク掛テ目付ハ爪ト刀ノ間ヨリヒ  
 ツミシ見テ槌ヲオ掛オクキリ  
 ニ次第ニカシ下テ爪崎ノ方ヘオ奇



又カシ取直シテ内貝ノ押ハ際ハ刀ノ  
丸ニシ是モ深ク掛テ目付ハ右同断  
能々ヒツミヲ見テ槌ヲ打掛送切ニ  
次第ニ爪崎ノ方ヘ奇角ナキ折  
敷ノ如ク搗ハシ後爪ハ槽形ヲ心得  
テ搗タル吉故ニ後爪シ椎爪ト世  
ニ人ノ云也  
同裏ヲ取時ハ先口ヲ直ニ取セテ可  
也足ヲ拘ヘル者ハ右ノ爪ノ時ハ右足ヲ

踏込膝ハニ馬ノ鏡節ヲ持セ腰ヲ  
居ヘ左足ヲ踏張ルヘシ左手ニテハ  
折目際ヲ取右手ニテハ腕口ヲ持ス  
ヘシ左爪ノ時ハ左足ヲ踏込膝頭ニ鏡  
節ヲ持セ腰ヲ居右足ヲ踏張右手  
ニテ折目際ヲ取左手ニテハ腕口ヲ持  
スヘシ其後爪ニ向テ裏糸カヲ右ニ  
持左手ニテハ爪甲ヲ取テ腰ヲ居膝  
ヲ身ニ副テカシ右ノ押ヘノ爪際ヨリ

當クリススキニ左ノ押ハ際マテカノ行  
マ、ニスクヘシ扱カヲ取テ内ノ押ハ際ノ  
村ヲスキ取テ吉其後樋崎ノ向ヲ直  
ニ肉合ヲ心得テ村ヲ取一キ者也胡桃  
形ヲ取ニハ樋崎ハカノ刃シ上ヘナシテ  
當押ハノ方ハ臂ニテクルリト廻シ又  
カヲ取直シテ刃シ上ヘナシ樋崎ヨリ  
押ハノ方ハ臂ニテ是モクルリト廻シ  
テ吉其カニテ左右ノ押ハノ肉際ヲ

少シツ、ケツリ合目シハ矢筈カニ少  
シ取テ爪ノヒツミシ効ハ爪搦カヲ取  
テ左右ノ押ハ一文字ニ當搥シ搦掛  
テ踏付ノ直シ搦也爪搦人ノ足ノ踏  
様ハ得方ニヨルヘシ  
爪ノ大成ハ丸爪ニ廻シタル吉小爪ハ  
三方一文字ニ角ツアラセテ搦ヘシ立  
爪ハ樋崎ヲ伸テ押爪ヲ居竹子カ  
ニ心得テ搦ヘシ勿論右ハ口ニハ少シ  
石丸ハシ

肉ヲ持セ押瓜ノ裏ニハ矢筈ノ刀ヲ當  
ヘシシル曲尺出来瓜直ニナルヘシ  
及瓜ハ向ヲ搗詰押瓜ヲ立胡桃形  
ヲ開カセ樋崎シモ詰テ野燒ヲ折  
々當ヘシ一度ニ直サントスルテ惡敷  
也向瓜ヲ詰ル所裏ヲ取樋崎ヲ詰ル  
ニモ礼刀トテ敬テ深キ刀ヲ搗テア  
ルヘカラスサル者也  
回瓜俗ニ柝子瓜トモ云也裏ヨリ

直スヘキ者也白ノ持セアスキア  
シ處ヘシ瓜ノ繞廣ク見ヘハ瓜縛ヲ  
タスケテ搗ヘシ圍見刀ヲ常ニ心得  
テ搗ヘキ者也  
貝瓜ハ裏ニ湯金ヲ重ク當向脇シハ  
丸クケツルヘシ裏ノ繞廣ク出ハ裏ニ  
刀ヲ當ルテ用捨スヘシ又脇ハ瓜性出  
テ向結ルト見ヘハ脇瓜ハ圍見刀ヲ當  
ヘシ木方瓜ハ表ニ湯金ヲ重ク當



テ向瓜ニモ野燒ヲ當テ可也脇瓜ヲ  
ハ弱ニセテ向瓜ヲハ一文字ニ搗ヘ  
シ勿論圍見カシ心得テ搗ヘシ  
曲瓜世ニ外啗見瓜ト云也反テ長  
キ方ヲ居テ夫數カヲ添テ搗ヘシ  
二度目ニハ短キ方ヲハ弱カニ搗反  
テ啗出シタル方ヲハ圍見カニ搗ヘ  
シ勿論横根ノ取テ挿峙ハ直ニ取  
ヘキ者也

猫瓜ハ握瓜ヲ云也煮菜ヲ仕懸湯  
金ヲ折々當テ先瓜ヲ出ストシ專ト  
スヘシ押瓜ヲ立挿峙ヲ伸テ兩脇ニ因  
ヲ持セル様ニ搗ヘシ常ニ竜毛ニ灸ス  
ヘシ  
前掛瓜ヲハ木瓜ヲ居テ四踏ヲ揃ヘ  
直ニ搗ヘシ後瓜ノ木瓜誥タルハ直  
リカヌルト知ルヘシ後瓜立テ踏テ  
前掛ハ後瓜ヲソハニセテ前瓜ノ

直シ搗ヘシ

同前瓜ニテ前掛ルヲアリ掛サル方ノ

瓜ノ外貝シ居テ可也

舩ノ挟過タル瓜又ハ中節ヨリタルニ

ハ外貝シ居テ搗ヘシ

舩内キ過タルニハ外貝シ立内貝ヲ

居テ搗ヘシ

前シ結フニハ内貝シ居テ可也前足ノ

間廣過タル馬ニモ吉

同前シ割ルニハ外貝シ居テ搗ヘシ

早馬ノ瓜搗ヤウ運ノ位ニ大事口傳

瓜三四ツノ持セ冥之事 口傳

三曲尺之事 口傳

二曲尺之事 口傳

浅裏瓜ハ大概石ニ懸ル者也俗平

臺瓜ト云也貝瓜ノ類タルヘシ押瓜

ヲ生立裏シ数度ニスキ取テ湯金

ヲ當其後鳥金膏ヲ付ヘシ

裏虫瓜ハ石ヲ燒テ其石ノ上ニ塩  
苙ヲ懸馬ヲ其苙ノ上ニ立置賜ヨ  
リ水ヲ掛ヘシ水火ノ勢発シテ塩瓜  
裏ニ入テ虫ヲ殺シ瓜精ヲ強クナス  
者也惣而此法ハ裏痛ノ類ニ専用  
也

裏虫ニハアラスシテ瓜ノホロクトカ  
ケ研クル瓜アリ歴ノ湿リ過タル  
故也既シ干シテ可也瓜ノ朽タル瓜

シハロロト搗詰テ煮薬シ以テ治  
スヘシ  
瓜縮ハ貯ノ時骨筋ヲ強ク遣タル故  
也又裏ノ取ヤウニ村有テ表ニチ、  
ラ出来テモアルヘシチ、ラヲ鏟リ落  
シ裏ニ村ノチキヤウニ取ヘシ  
豎篠割瓜ニハ其篠割瓜ヲ切ヘテ  
押瓜ニカシ持セ或シル曲尺ニ搗テ  
モアルヘシ但篠際ヲヨリ通シ穴ヲ開

テ其穴へ鯉節ヲケツリセシニサシコ  
ミテ瓜ノ伸ルヲ待ヘシ糯米シ飼  
タル馬ハ必ス瓜割ル者ナリ  
横篠切瓜ニハ瓜ヲ四匹ニテ持セ少立  
位ニ搗ヘシアクトノ方ヨリ割タルヲ横  
篠切ト俗ニ横フツキレト云也麩  
粘シ以テ治スヘシ  
石割瓜ハ端瓜ハカリ少宛カケ研  
クルシ云也端瓜ノ内ヲ四匹ホトメ

ニ切カケテ置ヘシ合割ハ猪油ヲ付  
テ治スヘシ初発ニハ夕ニカ子ヲ付テ  
可也第一麩粘ヲ言トスヘシ  
腕ニ惡血ナトアル馬ハ朝露ノ内野  
原ニテ乘ヘシ冬ハ雪乗モ可也瓜  
ヲ常ニ搗ニハ肩口ヨリ瓜崎ヲテ直ニ  
ウチ出ス加リ搗ヘシ然レシヲル曲尺  
ヲ心得テ搗ヘキ者也  
瓜際腫又ハ瘡ヲ生スルノアラハ速

二血ヲ放スヘニ朝毎ニ温補シテ可也  
爪ヲ搗フニシヨル曲尺ヲ吉トスル者  
也

野燒之事 口傳

湯金之事 口傳

禮刀之事 口傳

圍見刀之事 口傳

竹子刀之事 口傳

矢筈刀之事 口傳

烏金膏 俗裏膏葉ト云

紫礪 刀青 黃蠟

人髮 燒灰

右五味 銅 鈿 内ニ於テ膏トナシ利

刀ヲ以テ硬蹄ヲ削去テ膏ヲ塗リ鉄

燒ヲスヘシ口傳

日本武尊

貞純親王

八幡太郎

義家

六條判官

為義

湯山入道中原玄性

大坪式部太輔廣秀

村上加賀守永幸

奇藤備前守国忠

奇藤安藝守好玄

奇藤備後守思玄

奇藤春宮及辰遠

丹列住僧了慶坊

奇藤求馬辰光

奇藤主稅定易

和源州牧 胡地  
和源州牧 胡地  
和源州牧 胡地  
和源州牧 胡地  
和源州牧 胡地

